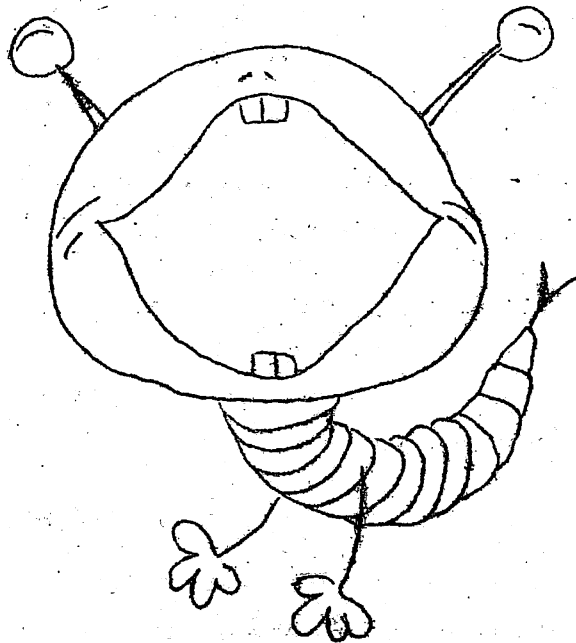


SUNAC

昭和51年度 下半期 総決算

個人山行

報告書



屏風岩 - ルンセ 10月9日~11日 L. 山本, セト

10月9日(土) ◎~◎ 長野 - 松本 - 上高地

10日-11日の連休を利用して、かねがね登りたいと思っていた - ルンセへ。新島まよりのバスで師田、片山 party に会う。彼らは赤沢岳を登ほりに来たとのこと。暗くたがって横尾の小屋についてみると、中は人がいなくて入れそうにないように見られたが、二階の物置室のような所をみつけとまる。

10月10日(日) ◎ 横尾 - Ta尾根 - 横尾
7:30 8:30

昨日の雨で岩の状態はよくないようであるが、ひとまず小屋を出て師田・片山 party と分かれ - ルンセへ様子を見に行く。Ta尾根の取付点には 10 party ほど列を作っている。また - ルンセには 3 party ほど見える。これではとどき登れそうにないの2、小屋にもどり荷物を持て新人合宿の時の所へ移動。今日休業。
夜になるとふと屏風を見上げると、岩のあまごちがライトからちらちら、なる... なんと...

10月11日(月) ① B.C. - 取付 - 終了点 - B.C. - 上高地 - 松本
6:10 7:00 10:50 13:30 15:40 20:50

先行パーティーがあるとは落石の危険があるため、早めに B.C. を出発。それでもやはり、先行パーティーが来たか、- ルンセの取付点に2先に行か(せむらう)。最初の2ピッチは 1-ザイルで岩を少しぬかす2、恐ろしかったが何とか3ピッチ目にはこより Top 山本2。フェースからチムニを登り、またフェース、チムニを3ピッチ進む。確保点は大きなカレ場のテラスが多くしっかりしているが、睡り土から落石が来る。どうやら上にもパーティーがいるようだ。4 pitch 目(ザイルピッチ) 私もようやく梯子がとどきたため、ここはトップ2。ここ下部は終わり 200m ぐらしかレ場を登り、最後のピッチへここ先行パーティーにおいつく、先に行か(せむらう)。彼らは取付点近くでセパ(う)してたこと。Top 山本2。ここは風化がひどく非常に岩がむくむ。10:50 終了。

このあと赤かき一より B.C. に帰り、すぐに上高地へ。3時40分ごろ上高地に着くが、驚いたことにバスターミナルは人の山。私達がバスに乗ったのは何と 9:30。

最終列車もたいてい、今日は思誠寮にとまる。痛んだ。

【感想】 (ルンセがなかなか楽しいルートである。特に変化に富んだチムニが多く、充分楽しめる。ただし、10月の連休山行は上高地へ行くのはよした方がいい。)

明星山 551.10.11~12

L 中嶋 筑田

10日 ●

長野から糸魚川をまわって小滝まで馬の自転車置き場でお泊り。

11日 ● → ⊙

夜中は大雨だったが朝になると雨もやみ増水した小滝川を見ながら林道と南壁の対岸まで行き、ピクニックをさかしてうろうろしたあけく、ビスイの番人の小屋にとめてもらうことにする。10時頃まで岩が乾くのをまて、墓石稜を登りに行く。小滝川を徒渉し、東壁ルンゼを登る。ルンゼは滝になっており途中から左の草付を登らされる。トムへ続くルンゼを少し登り、右へトラバースすると、東壁ルンゼの大棚の下へ出た。ここから右のバンドをトラバースし、木の中を30mも登った所が墓石稜左稜の取付である。

1P目 top 中嶋 リッジとザイルいっしょまでのはず Ⅲ

2P目 .. 筑田 リッジ15mで傾斜があらうてトラ Ⅲ

右稜とのジャンクションから少し登って、ナムニーの下で行動食をたべる

3P目 top 中嶋 ナムニーから右の五-ス1. 30mで傾斜があらう Ⅲ

しばらくトラ

4P目 top 筑田 右側のフランクを登り、快適な五-スであり、右へ出てビレー IV

5.. 中嶋 リッジと30mのはしてビナクにてビレー IV. このビナクは旧木の岩場にのって、なかなか、ちゃんと1Pあった。

6P目 top 筑田 快適な五-ス40mでホルトにてビレー IV+

7.. 中嶋 5m登っておぼろげである。ザイルをとく。

フランクの中をP5を目指して登る。P5とおぼろげな所だったので、南の方へフランクの中を下りせしめる。P5から南山稜と思われる岩稜が見えたので、その下は南稜だろうと思っていた。そのうちセコ開きがあったので、とんとん下ってしまう。展望が開けて「トキッ」下にP6が見えるではないが、さらに左方にはトムが見える。しがしあセコ開きがあるのだから、たぶんかなただろうと思い、またフランクの中へつっこむ。セコ開きを下ってゆくと、いつの間にか南山稜が見えなくなってしまった。少し不安になったが、ルンゼととんとん下り、P5、P6間のルンゼへ出て、さらにそれと下ると、たぶんか送水管の所までたどりついた。

12日◎

朝から左岩稜と登山行く。

1P目Top 中 左一スを登り15mでテラス

2P目Top 箕 右の4mニ一から凹角状へ。右上方の凹角にシリンケが
ぶら下っていて、さそわれそうになる。

3P目Top 中 スラブ状の左上の凹角から、カボリきみの一スを人工
最初の5mが最悪。黒いコケのくたした様なものが常に付
いており、先日の雨のためカブカブになっている。ハケに付て
その上に乗って切りぬける

4P目Top 箕 一スをフリーと人工のミクスで矢張りテラスへ

5P目Top 中 傾斜の多い一スからバントラバース

6P目Top 箕 リンジを登り本の中へ

7P目Top 中 フリ

8P目Top 箕 階段状一ス 中央バントまでフリ

9P目Top 箕 凹角

しばらくフリで登るが、サバがじつと制、サバとよくそのまゝで南壁の
頭へ。頭でサバとあいて、下降路とさがしながらP6へ。結核頭から
西面へ入めあとを下り、アップダウン2回して、中嶋が下降路とさがしながら
クラングダウン。箕田には、もう1回アップダウンしてもらう。大きな滝の下へ
出て、そこから少し下り、右の隅で送水管にたどり着く。
小屋の中をかたづけ、小滝へはの人ひりきいた。

奥紋父 笛吹川支流東沢逆行へ甲武信岳

Member 西川・山本

夏・秋と岩登りはかなりやりすぎたせいがいささか疲れしています。秋も冬りに近づいた今、手を休めずに行ける所しか紅葉の美しい所に行きたいと言うので、東沢をえらんぞ。別にどこでもよかったです。ただ「けねと」ギスギスした所は「かり登」て来た僕には高校の時よく登った九州の大崩山に似た木ばかりの山にえらくひかえてあります。

10月18日 晴れ 長野→塩山→西沢入口→東沢小屋

朝早く甲府行きの電車に乗り込む。ア；ダ；ナに手つかずの弁当が置かれてあり、いささきの良いスタートを喜ぶ。中央沿線の高山は早くも冬枯しきっているが、甲府から塩山へと向う車中から望む奥紋の山は今が紅葉のまさかりなのかな。まんじり型の山々が黄緑にそまて美しい。西沢入口へ向かうバスも近所の小学舎や公園を回り、思いがかりに人だかりで乗っているもの。上高地系線のバスと違い、向かいのんびりした気になっている。東沢は、東沢小屋までは立派な道？かっているのでもうどうもきかない。途中で何かのおじさんに東沢は険しくて、道もなく徒渉がいらはりにあてたいへんだとあどろかさねる。どうも普段のころ、こうで運動靴なんかはいて来た人で、本気で心配させられたらしい。ときどき見える丸木橋にはアイセこの跡がいらはりにあてた。ここは滑滝が多く、冬はしっかり凍るので氷登りのゲレンデになるのである。今度は冬氷登りにくると又々々々々と例の心の中を覚く、という登はん虫からずきだしたが「ダ；ダ；ダ；小屋はそんなこと忘れにやて来たのだ。」と思に直ち。途中からついて来た人を従がえ、東沢小屋につく。河原で夕キ火をやりながらの酒はカハハハ。ついでのみそまでして、お茶である。かくて奥紋父の夜は〇りながらふけて行く。

10月19日 東沢小屋→東沢→甲武信岳→T.J

小雨降る中をキャリキャリ鳴く大に別木を告げて、東沢を逆行して行く。徒渉もたいたことはなく、サラサラ流れる。氷流と紅葉のコントラストは、すばらしい。こんな所を歩いてても疲れない。全然感じない。みたりである。いかに登り過ぎたの尻尾いよ。

しく、たぐんだの源流が近づいて来る。二人ともいつになく？
ポケーと歩いていたので、気づいた時は空ながし土場の下に出
ていた。こや変だと言いついでウラウラするがどうもあかい。
糸巻谷強引にブツツの中を突き、何とかふみあとにたどり
つくこが出来た。山にいるのをかみしめるのはいいが、あ
んまりポケーとしていくとよくない。木葉た。そこは
は今までとは違って、かなり急な道となり、け、こうバテてし
ました。甲武信岳の山頂からは十文字峠の方に行く予定だった
のだが、け、こう遠そうなので、スグナシのほぐすはあせり
とやめてしまひ、頂上から北の方へ降りて、沢を降りてこいす
る。何と言う名の沢か分らない。け、道もありそうなので
なんともなう。また、ここは北アルプスと違って
ボーヨとした感じで気分がいい。今日中におりまなことも
ない。か、たいないので、沢の中で泊まることにした。その
の流木をまとめて焚火をたく。酒のビンを開ければ、ここは天
国。雨もあがらず、静かだし、いいことなし。そんなこゝで
今日もまたのみすむてしま、たのである。

10月20日 雨 下戸→梓山→信濃川上→長野

いったんは上った雨がまたふり出した。カサをせしなかつた
ら、さりと下へ行く。岩を登、た時のまうな実感はないが、長
く忘れていた心のゆとりが、しみじみと湧きでてくるようだ。
あくせく歩いたり、攀登したりするの、も良い。け、たまには
こういふ山行が、新たに山を見つめ直すのに、実に有効なものである。
そんなことを考えながら、雨の奥紋文に別れを告げた
のであった。

下ノ廊下 10月21日~23日

メンバー 三井、竹之内

21日 ① 松本 → 天町 → 扇沢 → 黒田ダム → 内蔵助の出合

午前中の授業が終了し2時から出発する。大所にてESSENをやる。扇沢からは毎日最終のローバスに乗る。黒田ダムに行く。ダム下のところを歩いてると右足のひざの関節が一瞬ずきと止。べつに気もとせず内蔵助出合に到着。この辺の月夜に紅葉は早まる。涼しい気がする。例にふと早くホワ休を欲し。この日は就寝。

22日 ①~③ TS. — 十字溪 — 阿曾原 池

いよいよ水平歩道にはいる。自然小径に到着は完全に足が"目から"取れていた。たいてい暑いこと休むところあるところはまた深緑あるところは黄に紅葉に。あるところはまたあまやかな秋色の色どられた世界に。しばらくは侵入してきたのである。このあたりはもう紅葉まじりだ。ついでである。荒しい剣岳の剣沢を下っていく。こんなところか。ゆがたゆたのある世界が続いていると思う。何か胸にせまるものがある。びくをひいている自分とみつめると、母に送る感謝の念がこみ上げてきた。こけをいげしげと履たり。落葉をふみしめる音に聞き入り、暖火のにおいを胸いっぱいすいこみながら歩いた。遅く水平歩道が近づいてきた。音も静か歩けたが、いよいよ阿曾原のF7というところでは苦しいといたならなかった。テントをばり、食事の前は、F7にはいりにいく。ところがこれまたたいてい下らなく、また下らぬ。露天風呂下から、まあ、しょうがないと思っ、ヘアチャンペタチャンと下りていった。文岸のお山が夕暮に異様にそのまのしく見えた。汗を流して、一息という感じた。それにしても関節炎はまいた。ものま。温かいとさ、汗拭いたのに上りの汗びり。飯を食ってから二度目の風呂を味わった。すどに外はま、くらである。ホワ休をかたむけたから、途こづ感じていること、F7を語り会った。三井くんはいろいろ悩んでいるようにある。いつごろ寝たのであろう。気がついた朝であった。

23日 ①~④ T.S. 一志合谷一 榎平 = 富山 ~~一~~ 松本

朝めがさめると小雨がぽらぽらふりふり。少しテオの中でのんびりしていた。LTはいい小ぶりに付、2きたの2で出だした。30分もすると雨はあがってさうた。この日のトピクといったら志合谷対岸の奥鐘山だろつ。それにしてもステールの下き岩場2つある。三井くんがくわしくルートの説明をしてくれた。三井くんが「おい、竹田や、あそこに登る気あるか」と聞いた。ほくは今の時何とほはは「うん。」と答えてしよた。結局「ほくはいいよ。」と行くとなくすむしやうにうた。榎平は下る坂がまたえらかた。途中の一回休憩をととくとて休憩と本たしかまた苦しい。榎平はつくつくにお猿の電車が出るというのでとむのる。

こんな素晴らしい道をおもったT.はたのには幾多のトラマとカタような思いがする。

一人にたいた今、こんなT.は新鮮かにはおめかえとて山行はたむ。

鳥居マ〜浅間山

10/30 ~ 11/3 山、箕田俊晴、石川知宏(部外者)

10/30 車で織維学部の下室付農場まで親しいゆき大生に送ってもらう。

10/31 9:40① 五万の地図の東入地区からの登山道が全く廃道になっていてイバラとクマササに苦労しながらいく。遅くしてすすす。

14:00 ミゾレまじりの甲② へり出し、いらいいやけがさしてカマコジャントこぼしてしまふ。約1700m地点である。

11/1 ① 強風 10:30 朝地下90℃はセンターのまに凍っていた。クマササのラ、セル。昨日からけさにかけてのミゾレがとけ出してクマササの氷がラッセルでかき除くもの下から、もうぐちぐちで爪先の感覚がない。崖前南側のニセヒコクとちかくなり、やっと元気が出る。樹氷エバ、クハ写真うつしながらあるく。

12:45① エボシピーク着。まろニカミ道ははきりしている。湯の丸山まで14:25 地蔵峠着、バニカロー着。

11/2 9:15 出① 車道たもと遊歩道とあるいて10:45 北の平着。南に富士がめきん出ている。ここから東麓の登山(みかしかのやま)まで180m。E本気になつて登つたう15分でピークについた。11:40 ピーク着。

大快晴無風。石川君感激して遠く小さくしかみえない北PE何枚もうつす。12:55 水の塔 通過。13:45 車坂峠着。ここで行動をやめてはあれた浅間山から下山が苦しくなる。

14:00 トーミの頭へ出る①。14:30 日本シリーズ7戦 森本の逆転ホーランバテ気味の石川君 目の下にみえる火山館へ急なルンセを強引に下ろすと主張する。樹林帯から切れおちた電柱にとび出し、全休でみせた浅間山に大感激。富士山の上部を4コソてみた形。この場所は下に火山館がみえ、ついでに下へおきずりにまわらうになる。ほんのま黒斑山や丁バードの外輪山への登山道を少しのほうでトーミの頭のわかれから急激な下り道がガケをぬうようにして実にうまいついているのだ。ルンセを下ろすと押さえてほくが拒絶している時。ちょうどウタタニングでこのルンセを大きな自然落石があった。この落石のおかげでが木の頭が冷え、やじわかてくわす。15:00 トーミの頭をこし、さっき言った下り道に出会い。16:20 火山

神社のとりいかみで大きなトウシの建物で無人、戸じまりのハリが
Eをかして申に入る。もうわつにイオウくさい水しかなく雪をかきあ
めるとほろい水にする。最後の夜の言にはみじめだった。

夕方アードントロートに赤いはだの外輪山の垂直の壁が目の前に
かぶさり。それはもうこの世のものとは思えないくらい景色
でした。

1/30 習慣になつて朝寝をしていて下から東京のOLか2人きものを
服をきて小さなサックでやってきました。黒斑へ登るといってわが、教へて
やったと別にいかなんで険しいところを上へ上へと登っていきま
つていた。昨日 早くから下つた急坂道へ下から誘導してつて喜ば
れた。9:15出 10:10立入禁止地点。でもたくさんの方が登つて
いる。ただせめて高度をかきで 10:55 火口着。雪は皆無に
ちかかった。火口がすごく大きく歩いてまわつたら30分位かかる
だろうか。なんだかヒョクへ立つたといふすかさずかさがない。
ケリリ1周 ともに二も同じような高さでつづいていいるから。火口の
きこむ絶壁で下は地獄。凧風のかげんで直接ガスが上つ
くと鼻がしびれる。火口が大きくあつて火山館がわにはこの外側に
できにないの外輪が有。うのまたはるか外かわにトミ黒斑、
アバントの外輪壁が赤い。それこそそうである。北ア、菅平、田代湖
フジ、ハツ、御岳、乗鞍、中央、南ア、何でもみえる。

11:45 火口の最高地点ついで写真とる 11:55

13:05 峰の茶屋着。鬼の押出つて観光客がうおひ。また
はやいので、バスで下つてはかわない。白糸の滝、小瀬、旧軽井沢
へと静かな遊歩道がある。軽井沢では期待はあられ、いつも
天地真理や芸能人がゴロゴロうらうらしているわけはなかった。

14:25 軽井沢馬車着。小諸で下車して懐古園でちう一泊
する計画はやめました。 reported by Midona.
おたのましがいい。

馬向津沢左侯 L吉田(M) 二侯(M) 中嶋

11月20日～11月21日

1日目 ④ → ⊗ → ① → ②

伊那 6:20 — 戸 7:46 — 丹波山荘 9:30 — 馬向津沢出合 12:16 — 二侯 15:00

戸からついでに雨だった。ここ数日の高温に伴い悲惨な未踏を予想させる雨だった。丹波では川原の単調な道を2ヒコでついで。丹波より赤川原の道歩き。大右小左への道と木村和谷をついでよく15mの滝があった。このあたり雨は雪に変わった。右のルンゼを登って巻く。河原にありて5分も歩くとまた20m位の滝があった。その所で休息。大急ぎをします。右岸の岩壁は大きくして上まで巻きながら岩壁の中ほどと草を歩いたらバス。左岸からアツサイに40mして、さらに草を歩いたらバス。バスで滝の上へ出た。そこで馬向津沢出合である。F1は40m位の垂直な滝で、また急ぎ。奥馬向津沢の左からとついで、奥馬向津沢F1の上へ一度あり、さらに右へ上り、馬向津沢F2の上へ出る。そこから二侯までは石のゴロゴロした沢の中を歩いて行く。二侯に到着。あり、その中に少し休憩。

2日目 ② → ① → ②

BP 7:00 — 終点 12:15 — 縦走路 12:45 — 北沢峠 14:30 — 戸 16:45

二侯より左侯へは1日。左侯F1は2段15m位で、段目は氷で1日だが登れそうなく、右侯へは氷登ってからF1の上へトバスする。しかしF1の上はゴルシでその中をナメ滝が続いている。氷で1日なので、また急ぎ。また急ぎはカワの沢だ。河原にありて先はゴルシになっているが、もう急ぎはやりに。その中へは氷で水。ゴルシの奥は5m位のナメ滝になっている。右の岩にはついで、くすねそうな氷を歩いて登り、なにか上にあげた。しばらく単調な道を歩くと、奥二侯からついで、予定では左侯と登り、たまたま右の沢の方が氷で1日なので右へ行くことにする。このあたりから上の滝は氷で1日。ほとんどの角がナメ滝で左が氷で1日。一方木村やまな水瀑があり、アツサイに吉田はトバスしてアツハーケ、2本打ててこえる。次に中嶋が登り、アツハーケのナメ滝が氷で1日になり、あててきて右の斜面を登る。アツハーケはおおいたのだ。その上の滝をトバスして登ると、ハンは終った。サブでいて、縦走路とついで、北沢峠へ下る。

感想 おもしろくないから行かない方がいい (中)

戸隠八万畧 瀬原 真田 中嶋

3月6日 ○

今年初めてもう3回目の戸隠である。長野から時間の近距離にお
こはあて今日は八万畧を意図して来た。八万2年生は引退である。
スキー場行のバスを中社であり、朝大降雪された道と奥社の入り口まで
歩き参道にはいる。予想していたラセルもコースが崩れやすいため奥社から
先にコースが崩れ崩れがひどい。奥社から引退して、夏川早五間
長屋についた。八万畧から尾根はこぼれて大きな雪壁をなす。ルートは左と教
こにたす。休んでいるアサヒにした3人ハローが下へ行く。上の様子で登山
と状態は良さそうであるが2人ハローが先行しているらしい。五間長屋
から50mほど雪道は広く百間長屋である。こぼれてきた雪が長屋の如
く入口にナワリジとスレている。続くラビートソクの終りで走りぬける。
ルートは右へカーブし、クローリングの天狗の露地にはいる。夏川早五間
があるが、今霜降る雪壁となっており歩いて登っても尾根にもたす。
こぼれ先も夏川早五間場夫が今は潤滑な雪で雪壁である。一方
たけいすはルセルが崩れ、アサヒに打撃してもなく、腹突者の壁が
出た。腹突者は下部の緩傾斜帯が雪壁になり、それがいざして
2分されている。アサヒにしたものの、いざし処まではとんとん登て
いる。いざしの上部分が急で、15mほどたが雪が出て、真田トッ
で登る。雪の上で尾根は左に崩れ、雪壁が北側には出ている。
三人集結して1本にす。問題となるはずだった「虫戸おたり」といふ
るナワリジは、北面の雪壁とコラてぬけ。その時雪の尾根を登て
見おぼえのある八万畧大つた。下降は、腹突者とその下のルセルは
てアサヒに打撃、その後は走り下り、百間長屋でトハ見と
し、奥社まで、扶走。奥社の入り口まで3人で行き、セ
とミ田はそのま中社へ。中嶋は明日スキーを打つために、雪の積り
を止めた。

積雪期 戸隠 西岳 P1尾根 (1/15 ~ 1/16)
2度の敗退 (2/25 ~ 2/26)

Leader 山本, 中山島

なんで敗退したかと言うと、まあこの先を讀めば分るのだけれど、2回目とはもかく1回目はひどかった。テントを焼いたのだから。まったく初歩的なミスで、どうしようもない。といっていつまでもほやいてもしようがない。ミスはミス。これからはしないようにすりゃいい。とはいえ一念の反省はしなくちゃならんだろう。

カソリンの予始末でテント内で火事をおこしたのだから。事はそれだけではなく反省としては全体を見なくちゃいけない。要するに生活技術の不確実さということだ。これまでそれを無視(できたとはいわないか)軽視してきたということをは言える。「登りゃいいんたろう。登りゃあ」ととかく登攀技術のみ追い求めた。その表面に表われたということだ。あまり目を下ぬこういうことは付かぬが真剣にやれたいものだ。他の人もこれを讀んで、又新たに気持ちで山に行くべし。大きな登攀へのこれもまた大事な基礎の一つだのだから。

(山本)

1月15日 〇~⊗

長野 = 宝光社 → 楠川 → P1尾根取付 → 熊の遊び場

スキーヤーにも手取付からバスにのり、戸隠へと向う。ラジオは前日大雪注意報をかたがた22いたが、これまたみごに大はすれど、晴れ、うれしくな、2くる。宝光社から楠川の部落の方へ行き、大きくカーブした道の先からP1尾根の道に入る。道々見る~~戸隠~~戸隠は屏風のように一般的といえるP1尾根で之を垂直に切った、見え本当に登れるのか不安にたつた。2人きりでトレースもたぬ雪の原をトボトボラッセルしていく。ラッセルはむづかしいのであるが、2人で、うくのほさずが、にしんどい。2pitch目を楠川を渡る。岩のようにつむた雪が、ゴソソと川の中へ...。あんまり冬に渡渉などしたくないので、対岸の植木に必死でとびつく。ここから天狗原まで短いが急登である。時々腰まわりの雪に苦勞しながらも、ちと上に出る。200歩交代もタツ。バテバテである。それでも俺たちちや歩かにはなすめ。自分のやっている時は之らく長いが、後ろを歩くとすくにおしまい。何回休んだらうか。ちとのこと、P1尾根の取付についた。雪原から急に尾根がのびている。まじり込みのいるのである。ここでもう泊りたくなってきた。

急に下ってきたのではい出すといった方がよいかもしれぬ。天気もよく、
むしろ暑いくらいだが雪まみれになりそうなのでヤッケ、オーバースホンを
つける。最初は大カッとした丸みをおびた尾根だがやがて細く
やせこくる。

かなり後を妙に登りや下り、トラバースを終えてやつのこと、熊の遊ば場
につく。ちがったところ、テントでもほれそうである。明日のことを考えて、シッ
リ上部を視察してツェルトにもぐりにむ。

やれやれ落ちつき、メンを食い後は寝るだけとコンロにガソリンを入れ
ている時だった。それがおきたのは、

話せば長いことながら、短くいえば引火したのである。ローソクの火が
ガソリンにちゃんと入口の外で入れていたのに、変な色気を出して途中で
ローソクの火を消そうとしたのが大まちがひ。目の前はあつという間に赤い炎
につつまれ、やつのこと、消した時はコンロはひしけが眉毛はこけて
ツェルトははけていたのである。悪いことはかさねるもので、知らないうらに雪が
降ってきているのは、下りるにはもうおそく、どうしようもない。ふてくされ
てどうしてしほれとツェルトの穴をしほり、巻き込み、それともどうから落着いた
時はもう真暗だった。

1月16日 ①

B.P. → 往路下山

きのうどうなることかと思ったが、雪も入ったこともなくやみ、何とか下った
ようである。コンロはつぶれて要をたぎらないので、行動食をホソホソ食ひ
打ちひしかれた心も穴のあいたツェルトをザックにつめて降りはじめたので
あった。くる時は何とか下ったトラバースの箇所がおりれず、やみたくアッ
ザイエンを10m程行かう。

その他は別な大したこともなく、登ってきた時のトレースが残っているので
とどろん降りることができた。来た道とおりにとどろん飛ばして宝光社
には昼すぎについてしまった。

うちひしかれたが、たがめる戸隠は来る時よりも一層高くみえるのだった。

積雪の中、西岳、尾根

第2回目敗退記

山本・中山島

2月25日 ○～◎

長野 → 熊の遊み場

車の音がうるさく、良く眠れぬ中山島の下宿を後にして
また戸隠に向う。やはりお空の上はブルースカイ。この前
と同じに2人で200歩交代ラッセルをしながら元気に
歩いてゆく。雪は1月よりやぶさた程度である。この前
アプサイレンした所はアンサイレンして通過。熊の遊み
場にツェルトを上げる。

2月26日 ○

B.S. — インセル下 — 往路下山

朝早ければ雪もしてきているだろうとの期待とむねしく
雪はサクサクである。かなり急な雪壁を登り小さな屋根上
に出る。そこから左上に向って登る。小さな木の所でアプレンを
はく。

ここからはまたまた急な雪壁を登り、インセル状岩稜と
いわれ2いる所の下に着く。ここからは左のルンゼを登る
らしいのだが杖態が非常に悪い。所々に亀裂が入り
おり、入ると腰あたりまで落ち込んだりする。ピル一点マ
あれば何とかなると思うのだが、ピルはまじく復あ
という鎖もうまっているのか全然分らない。やむを得ず左へ
いったり、右にいったり、ウロウロするがため、ふと左右の山を
みるとデッキイルンセから雪崩れがドバドバおろしてくる。
しばらくここで何をすることもなくホサッとしていたが、どうしよう
もない。首魁会談の末、残念だがおりにした。

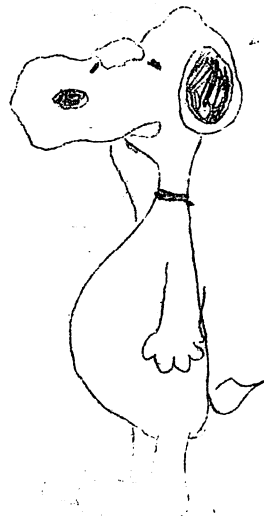
またまた天候に終わったこの山行に悪態をつきながら
とんとん走りおりました。

もう今季は行く機会もないが来季こそはと決意を
新たに雪の戸隠に別れを告げた。

以上が二回の敗退の記録である。

まあだるいといふはだるいが勉強に当たるといふは
当たった様でもあった山行である。

おしまい。



西穂 ~ 槍 縦走 土田 箕田 瀬戸

期間 3月10日 ~ 同16日

1日目 ①

松本から沢渡まで、電車とバスを乗り次ぎ、そこから歩い上高地へ、釜トンには新々氷があり、電燈がつかっている。木村小屋にて登山届けを出し、西穂山荘へと登り始める。しかりしたトレスがあり、1時間ほど登った所で雪洞をほる。雪積量約1m

松本 — 沢渡 — 上高地 — 西穂山荘への登りの途中
7:20 8:50 15:10

2日目 ②の3①

出発してからまもなく土田氏が吐気をうたえる。西木山荘で30分ほど休み、出発。本日は土田氏の調子が悪く行動も10:30で終わり。独標前のコルに上高地側と雪洞をほる。

T.S - 西木山荘 — 独標手前のコル
6:30 8:30 10:30

3日目 ①

稜線上は非常に風が強く、雪もほとんどついていないため、夏道がはっきりわかる。天加の頭から下りてアップサイレン7回使用する。これから白出しのコルに行くには時間的に問題があるので、本日こゝまでコルから10m下った所に雪洞をほる。

T.S — 天加のコル
7:30 12:15

4日目

あいかわらず今日も風が強い。ジャンダルムのトラバスにサイレン使用。口バの耳の下りは、アップサイレン7回。馬の背は梁に通下できた。白出しのコルに10時少し過ぎに

ついでに山行期間もあるから、今日は北麓に行くことに決
定。三國沢岳の下りは、けっこう、ショッパイが、やはり新はく
さりがあり、ガイルを通わずに行く。土田氏の調子はあいかわ
るす悪い。北木には、富士大のテントが1ハリある。

T.S — 奥ホピーク — 白出しのゴル — 北木小屋
7:45 10:00 10:30 12:30

5日目 ぐス 現

昨夜の雪で入口がつかまってしま、出るのに苦勞する。外はガス
っているが上空は晴れているようだ。ときどきガスの切れ目か
らニルカ行、槍が美しく見える。

6日目の

心西にいて白大切戸までの下りもわりと鼻に通過でき下
しかし、滝谷からの風の吹き上げが非常に強い。南岳
の避難小屋で少し休んでから槍へ出発。横尾尾根から上
がってきているトレースがあり、槍、肩では入山の時念ふ京
都散歩会と会う。少々優越感を感じる。お茶を飲んで
から、(田君と二人で槍のピークへ。天気がよいので、北アルプ
スの全ほうがよく見える。

T.S — 大切戸 — 槍、肩の小屋
6:15 7:05 11:10

7日目

土田氏の調子も入山い束づつと悪く、賀田君のピッケルの石
つきも壊れたので、東嶽尾根を断念して、下山することに決定。
槍沢を尻セードで快適にすべり、1:30、上高地につき、そのま
ま一気に沢渡まで、18:00の最終バスに乗り、松本へ。

[感想]

期間は短かいがたいへん充実した山行であった。以前から
思っていた。雪のある時期の、穂高槍に登ったのは、非常
にラッキーだった。天気にもゆりめくすれ、ほぼ予定とおり槍
まで行くことができたが、天気と雪の状況によっては、かなりむ
ずかしい場所もあつて、来るともに、いはいはいはい(おせい)

行動記録

3/5 松本→富山

松本を夕方出発、富山下 station まで。

16. ①→② 富山→神岡 11:00
打根 8:00 ~ 打根東越 11:10 ~ 富地山 1:40

打根部落まで夕方まで入る。入山の不安、先約を人の
不意をかき逃すかのようにとんとんすすみ富地山まで行
く。足跡のすべりめに雪洞を作る。

17. ③→④

朝、雪。視界を悪く沈黙とする。

18. ⑤→⑥

朝は少し視界もよくなったが思わしくなく赤木平への下降
も不安な下りなるとも北の傾度が増えるほど危険とす
る。そのうちガス濃くなり、みずれたな。たんで沈黙
沈黙とする。明日も沈黙になりやうかやうかして行く。

19. ⑦→⑧→⑨

明日がガス濃く、さーさりと沈黙と思ひこむ。SHのつぎれ
がはいいんで600前後より隔た新しいのを作り出す。
雪。と新しいのがかきたと思つたがガスが流れ北の傾度
見えてくる。踏急無急、傾度やうだったのには...。しやう
がはいいんで新しいSHでお茶のふし雪場、お茶出張。北の
傾度の長い雪りに思ひこむ川辺を緩やかに下る。北の傾度
より更に急な思ひこむ下降ルートをとる。スキー下
下つてくるのに雪量が増くしんごい。祖父平までびんごの
呼吸と判断。ルートを赤木平より赤木平の南の方へと
する。踏急急な思ひこむ下降ルートをついて赤木平頭頂の道へ下降。
北の傾度を思ひこむとここにSnow洞を作ることにした。2400
行動録を止めた。としたら雪面がふてきた。
北の傾度の思ひこむ中に行くと思ひこむ、さすかに履物をする
てくる。

のかる。若かりしてスズメの塊くると、思ふ! 1度靴の中下見が球を打つ
 と、吐き出す。若かりしてスズメの塊くると、思ふ! 1度靴の中下見が球を打つ
 てくる。若かりしてスズメの塊くると、思ふ! 1度靴の中下見が球を打つ
 2人、スキーしてトボトボ、がたがためいしくもいたる。雪のし
 陽を浴びながら歩く。雪のうらやま判より針、木管らしきものを
 が入った。正面には赤い雪、小屋が赤く染った。雪のし
 左側に雪の山、小屋が見え、雪のうらやま判より針、木管らしきものを
 いう。雪のうらやま判より針、木管らしきものを、雪のし
 もあった。雪のうらやま判より針、木管らしきものを、雪のし
 の。雪のうらやま判より針、木管らしきものを、雪のし
 20m以上下がる。雪のうらやま判より針、木管らしきものを、雪のし
 小屋の雪のうらやま判より針、木管らしきものを、雪のし
 と見えた。雪のうらやま判より針、木管らしきものを、雪のし
 雪をた。雪のうらやま判より針、木管らしきものを、雪のし
 之をた。雪のうらやま判より針、木管らしきものを、雪のし
 のでは...と思つてた。雪のうらやま判より針、木管らしきものを、雪のし

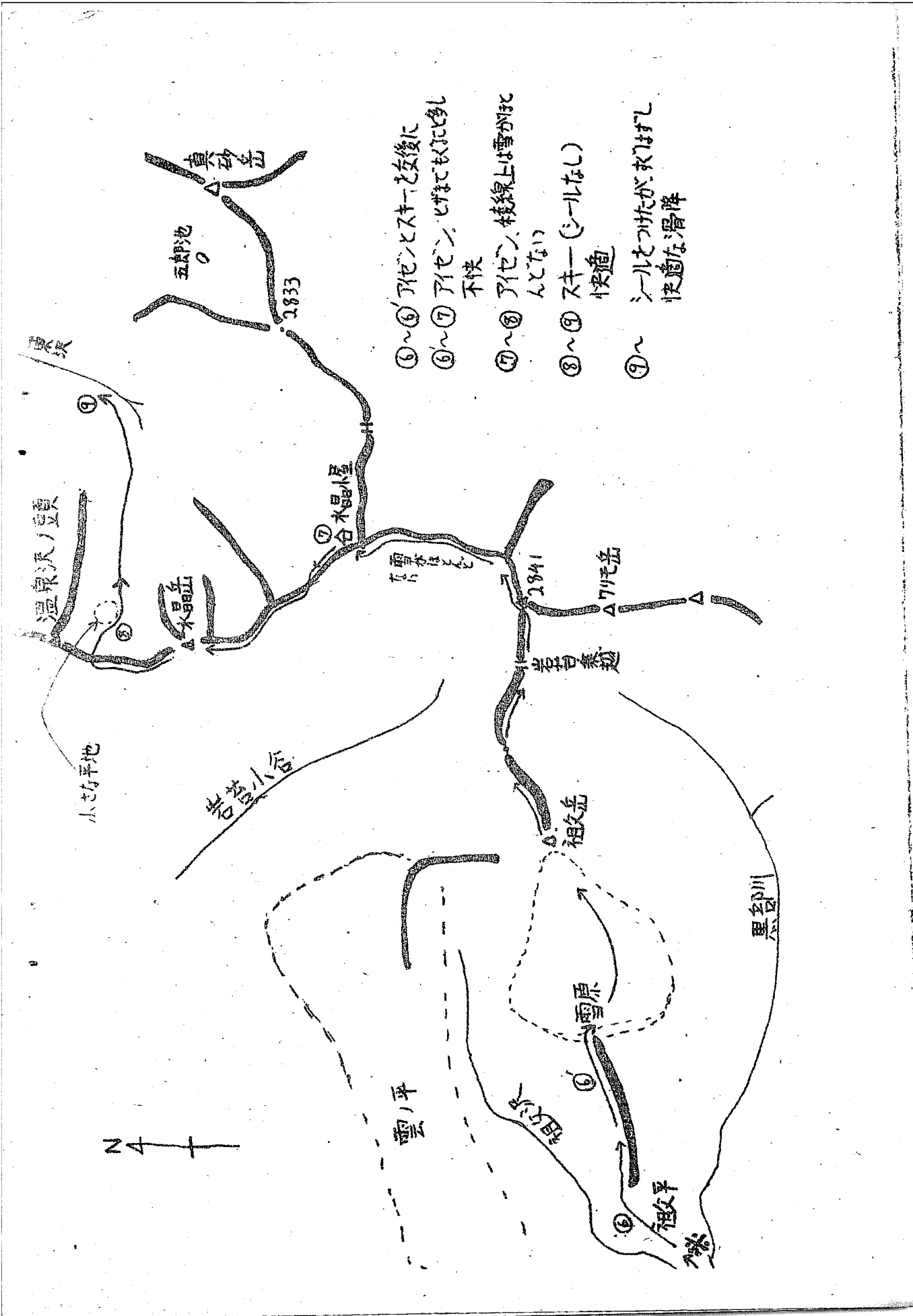
3/22 ◎◎◎

そんな悪天気じゃなかったけど、身体は凍。ひたすら黙子。

23. ◎→◎

9:00. 小屋を後にして黒部湖に降りる。前方の雪がスキーの
 方向は悪。雪がく不気味。一足か雪が滑り出した
 への方向。10:30 がムカイトに。がムカイトの雪はプロ
 が滑り出す。11:00 がム。雪トンネルの入り口
 工事下閉塞。トンネルをほぼ半分滑り、
 かけん嫌。たここで雪の車にひたれ大勢かり。
 更に黒部のスキーで工事の進入。雪のトラウマに滑
 り大勢かり。雪のトラウマに滑り大勢かり。
 4人、アムカイト。大勢かり。雪のトラウマに滑り大勢かり。
 南直下下。雪のトラウマに滑り大勢かり。
 のトボトボ。雪のトラウマに滑り大勢かり。

感想 生きて帰れてヨカク〜!
 スキーの有効性をしめすに充分な山行だったと思う。
 来年の春も、またスキー山行をしたい。 中嶋



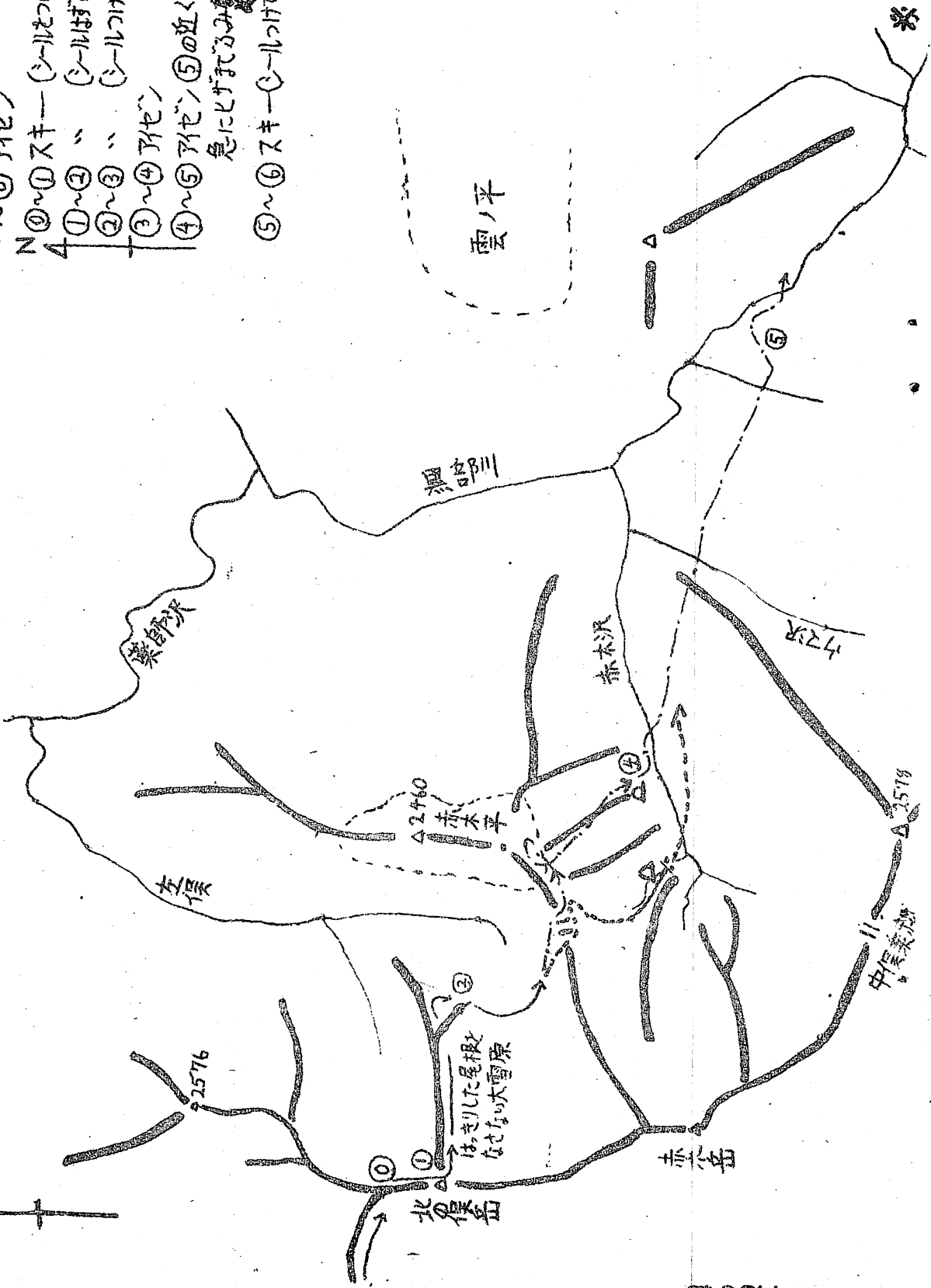
- ⑤~⑥ アセンとスキーと女後に
- ⑥~⑦ アセン、ヒナで氷に乳不快
- ⑦~⑧ アセン、稜線上げ雪が乳んこない
- ⑧~⑨ スキー(シールなし)快適
- ⑨~ シールとつたが氷が滑り快適な滑降

N ↑

赤木平の尾根は、どこもは、別した物ではないので
 かなり、テラス状にあると思つて下さい

4

- ① アイゼン
- N ④~① スキー (シールをつけて)
- ①~② " (シールはがして)
- ②~③ " (シールつけて)
- ③~④ アイゼン
- ④~⑤ アイゼン ⑤の近くで
 急にヒザがたふるみ水様になる。
- ⑤~⑥ スキー (シールつけて) 快速



尾根図

佐渡金北山 1月17日~18日

Leader 箕田俊晴

1/16 ⊗ 上田 ~~→~~ 新潟 $\frac{30分}{}$ 新潟港 $\frac{3h}{24}$ 両津港
港の待合室どまり

1/17 ⊗ 両津—新保

10:20 新保出発。佐渡の雪はとて湿っぽく気温が高いので
ふりかかるとすぐにとけてしまふ。クチョククチョにぬれる。
年中自衛隊が金北山の頂上まで走るという。
12:10 倉地団上の下流のガム。ここからガムを渡り自衛隊の道の
新保川をばさんた反対側にある尾根にとりつき、アップをつける。
ムマまで重い雪。雪はシンシンとふりつづく。風は強く、生あたたかい。
15:55 標高500m強に登り行動終了。ガスの間にみえかけれる。
金北山はところどころ岩がみえぬ松木がほつほつ散らばっていた。
おたまたま雪洞をほってぬる。

1/18 ⊗

あいかわり雪はシンシン降る。同行者石川君の体調が悪く、意欲
の減退をうたえろのでやめにする。ほんとうはひじりでも登りたいがた。
往路下山。

荷上げ山行

11月5日~6日

Member 川瀬, 土田, 箕田, 中嶋

11/5 ● 長野—中房温泉

11/6 ① 中房温泉—燕山荘—中房温泉—下山

上記のように燕山荘に冬山合宿のデノを致しました。

8 [人] x 6 [日] 分

長野市西長野信大町150の寮
東京都葛飾区

- | | | | | |
|--------------------------|------|--------|--|------------------------------|
| 秋田敬典
S.24.4.23 (公平) | 教 4 | AB VII | 長野市西長野信大町150の寮
東京都葛飾区 | 03-602-5417 |
| 加賀瀬豊彦
S.25.12.7 (法浩) | 工 院2 | B VII | 長野市箱里町中米飽531大尾乃
神戸市兵庫区水種6-2 | 0262-34-3474
078-575-9369 |
| 西川義満
S.27.7.0 (満光) | 工 4 | O VI | 加賀瀬氏に同じく
奈良県北葛城郡上宿町1172 | 07457-7-5217 |
| 西川 裕
S.27.7.7 (正治) | 工 4 | O V | 長野市北市871 武田方
福岡市西区七隈南7-1 | 26-5672
092-871-4292 |
| 宅正彦
S.27.12.1 (純一) | 工 4 | AB IV | 長野市若里1700阿部方
広島市宇品東1-4-27 | 26-0724
0828-72-2935 |
| 川瀬 亨
S.27.1.29 (幸作) | 工 4 | AB IV | 長野市七瀬632 本尾方
新潟市笹田 | 0252-45-6695 |
| 福 修
S.27.1.25 (八良) | 工 4 | O III | 長野市七瀬679 杉山方
神戸市東灘区御影本町4-2-10 | 0762-26-0639
078-811-2154 |
| 山 章
S.27.4.25 (長豊子) | 教 2 | A III | 川瀬氏に同じく
佐賀市東区22-13 | 09552-3-7488 |
| 瀬 昌則
S.30.4.3. (信義) | 工 2 | O II | 長野市若里荒木210-3 等野在
奈良県橿原市川西町52 川西田町34-2 | 07442-7-70 |
| 中嶋岳志
S.30.2.28 (信二) | 教 2 | A II | 長野市箱清水2200
長野県豊科町大字豊科1149 | 02673-3-494 |
| 土田章
S.30.10.30 (文男) | 織 3 | O III | 上田市材木町1-1-15 太田方
長崎市湯石町1492-32 | 0268-23-2818
0958-56-2343 |
| 安田俊晴
S.30.7.13. (俊二) | 織 2 | A II | 上田市踏入2-3-9 青木方
和歌山県東石川郡那智勝浦町 | 0268-22-6373
07355-2-3166 |
| 竹之内秀実
S.30.8.20. (正壽) | 工 1 | O I | 松本市島3-1-1 信大男誠寮
東京都白野市東平山2-8-8 | 0263-35-3962
0425-83-0746 |